

投資に役立つ

経済ワード

Vol.15

景気の転換点

景気とは経済活動の活発さを言います。景気が最も悪い時点を「景気の谷」、景気が最も良い時点を「景気の山」と呼びます。

景気の山・谷といった景気の転換点に関しては、政府（内閣府）が景気動向指数に基づいて決定します。



景気動向指数に基づく基調判断

内閣府は5月の景気動向指数を発表し、景気の基調判断を「下げ止まり」に引き上げました。3月には6年2か月ぶりに「悪化」としたことで、今後の政策への影響が注目されていました。

基調判断は景気動向指数の3か月移動平均などから、右表のように示されます。機械的に算出される基調判断に加え、個人消費や企業の設備投資、物価の動きなどから、政府は総合的に景気を判断しています。政府としての景気に関する公式見解は、毎月、月例経済報告において発表されます。

■景気動向指数（一致指数）による基調判断の種類

基調判断	定義
改善	景気拡張の可能性が高い
足踏み	景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高い
局面変化	事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高い
悪化	景気後退の可能性が高い
下げ止まり	景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高い

(出所) 内閣府 (<https://www.esri.cao.go.jp/>) 資料を基に野村アセットマネジメント作成

「景気の山」、「景気の谷」の決定は事後的

景気の転換点は、内閣府に設置されている有識者で構成する「景気動向指数研究会」にて、事後的に設定されます。そのため、景気の山・谷が公式に決定されるのはかなり先になることがあります。

2012年末から始まった今回の景気拡張期は、経済成長率の年平均が1.2%と過去と比べると低調なため、「実感なき景気回復」と言われています。足元で世界的な景気減速懸念が台頭している一方、日本の景気動向指数は「悪化」や「下げ止まり」を示しています。先行きは不透明なものの、景気がいつ底入れをし、次の景気拡張期に向かうかを探る時期に差し掛かっているのかもしれません。

■景気動向指数（一致指数）のCI※推移



期間：1985年1月～2019年5月、月次

グラフ内のシャド一部分の景気後退期や景気基準日付（山・谷）は内閣府が決定したものです。

※CIとは、採用系列の前月と比べた変化量を合成したものです。景気に敏感な指標の量的な動きを合成した指標であり、主として景気変動の大きさやテンポ（量感）を表します。

(出所) 内閣府のデータを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。